

令和 6 年度 事業報告書

社会福祉法人さわらび会

介護老人福祉施設 ブエナビスタ

令和6年度 介護老人福祉施設ブエナビスタ 事業報告書

1. 令和6年度 基本方針

(1)生活の場としての施設援助

入居者の方々が安心して生活して頂けるように環境を整え、生活の場を提供する。

(2)個別ケアへの取り組み

個人のニーズに応じた個別の対応を行えるよう、施設サービス計画書を作成し多職種協働により本人の望むライフプランが可能となるようにチームでサポートしていく。

(3)人材確保（採用・定着・育成）

慢性的な介護従事者不足が喫緊の課題となっている。介護職員の人材確保に向けてホームページやハローワーク、人材紹介会社、派遣業者等を活用し求人活動を継続しつつ一人でも多くの人材を確保できるよう採用活動に取り組む。採用時には、ミスマッチングが無いよう適正な面接実施やトライアル制度等の活用を行う。又、在籍職員に対してもチューターと協働し新人職員や中途採用職員、中堅職員問わず働き方や不安、悩み等が聞かれた職員には、面談を実施し解消に努めて離職防止を図る。施設内勉強会では職員の意見を取り入れたテーマを中心に研修を実施し、感染予防を行いながらできるだけ対面での研修を実施し、感染状況を見ながら書面研修に戻す等、柔軟に対応していく。職場外研修はWeb研修を中心に積極的に参加を促し職員の質の向上や施設の課題を明確化し施設全体の底上げを図り育成に努めていく。

(4)感染症予防

新型コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症予防の為、職員は基本的な感染症予防対策の周知徹底を図る。出勤時は必ず検温・体調不良の有無を記載してから就業及びユニット内では、換気・手洗い・消毒・マスクの着用、行動履歴の確認等の感染予防に努め、埼玉県感染症週報を確認・分析しガラス越し面会から対面面会への変更等状況に即した対応を実施する。

(5)リスクマネジメント

介護中の事故や誤薬ゼロを目指す。ケアの統一を図り入居者に負担のないケアを提供する。又、個別の心身状態の把握に努め、個々の入居者のリスクも把握する。安全対策担当者を中心に事故防止委員会にて毎月の事故報告書やヒヤリハット報告書を分析し、同事故・類似事故の再発防止に努める。職員には、年2回の研修（法定研修）の企画・運営し「気づき」がある職員育成に取り組む。事故や虐待（身体拘束を含む）の温床になる不適切ケアの廃止に積極的にも取り組み不適切ケアの無い風土作りに努めていく。

(6)技能実習生の受入れ

先行して本部で実施した技能実習制度を活用し技能実習生の受入れを行う。技能実習指導員や生活指導員を中心に技能実習生への介護技術や日本の生活習慣等の指導し育成に努めていく。

(7)地域貢献

シニア層で労働意欲のある高齢者雇用に結びつけられるよう地元企業の協力を仰ぎながらポスター掲示や入居希望を検討されている地元の方々へパンフレットの設置を行うことで、地域とともに歩んでいき、共存し合える関係を構築していく。

2. 令和6年度 稼働率目標

(1)特養入居稼働率：96.5%

「さいたま市特別養護老人ホーム入退居指針」に基づき、優先入居の観点から入居待機者の状態や状況把握に努める。前年度に引き続き常時数名の入居待機者を確保できるよう営業活動に力を入れていく。又、施設見学や相談・問い合わせがあった場合には、感染症の予防対策を行いながら積極的に受入れていき、新たな入居待機者を獲得できるように努める。地域の情勢とユニット型特養の特性を考慮したサービスを提供していく。

(2)空床ショート稼働率

ブエナビスタでは、看取りケア実施している為、開設から現在までのところ空床利用にて短期入所の受入れ実績はないが、引き続き在宅介護についての指導体制が整い次第、受入れを実施していく。

令和6年度 基本方針・稼働率目標に基づき、次のような活動を行った。

令和6年度事業報告

1. 事業内容

(1)入居定員 96 名（介護老人福祉施設ブエナビスタ 96 名、短期入居生活介護 空床型）

階	居室タイプ	居室数	定員数	備考
1 階（24 名）	個 室	24 室	24 名	1 ユニット 12 名 × 8 ユニット
2 階（24 名）	個 室	24 室	24 名	
3 階（24 名）	個 室	24 室	24 名	
4 階（24 名）	個 室	24 室	24 名	

(2)職員体制（令和7年3月31日現在）（単位：人）

	人 数		合 計	資格
	常 勤	非常勤		
施設長				
副施設長兼生活相談員	1		1	社会福祉士
事務員	1	2	3	
介護支援専門員	1		1	介護支援専門員
看護職員	4		4	正看護師 3 名 准看護師 1 名
介護職員	32	14	46	介護福祉士 31 名、実務者研修 5 名 初任者研修 10 名
機能訓練指導員				
管理栄養士	1		1	管理栄養士
家事援助員		11	11	
清掃員・用務員		3	3	
医師（内科医師：非常勤）		2	2	
合 計	40	32	72	—

(2)採用・退職

		令和 6 年									令和 7 年			合計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
採 用	正職	1	1	2								1		5
	準社					2		1						3
	パート	1	1					2			3	1		8
	派遣	1	2	3		3	1			2		1		13
退 職	正職	2	2		2							1	1	8
	準社									1				1
	パート						1	1	1		1	1		5
	派遣		2		1	3	2		1		3	3	2	17

(3)職員法定健康診断（腰痛健康診断含む）（単位：人）

	延べ人数
一般健康診断	58
新規採用者健康診断	14
腰痛健康診断	0

2. 利用者状況（介護老人福祉施設）

(1)市町村別・性別・年齢別入居状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

	男性	女性	合計	平均年齢		
				男性	女性	平均
さいたま市	14	63	77	82.0	88.2	87.0
志木市	1	1	2			
朝霞市	1		1			
八潮市		1	1			
練馬区	1		1			
世田谷区		1	1			
相模原市		1	1			
西川町		1	1			
佐渡市		1	1			
岡山市		1	1			
合 計	17	70	87			

(2)月別退所状況及び退所先

月別		人数	退所先			
			医療機関	施設	在宅	死亡
令 和 6 年	4 月	0				
	5 月	2				2
	6 月	2				2
	7 月	1				1
	8 月	2				2
	9 月	0				
	10 月	0				
	11 月	5				5
	12 月	3				3

令和7	1月	4	1			3
	2月	2				2
	3月	5	1		1	3
合 計		26	2	0	1	23

(3)入居利用者の介護度（令和7年3月31日）

要介護度	男性	女性	合計	構成比
要介護3	6	14	20	23%
要介護4	6	26	32	37%
要介護5	6	29	35	40%
合 計	18	87	87	100%

※特別養護老人ホームの対象者は、原則、要介護3以上

3. 令和6年度 利用者数

(1)介護老人福祉施設

（単位：人）

		令和6年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護給付	要介護3	732	768	675	716	702	720
	要介護4	1,020	1,059	1,030	1,054	1,088	1,064
	要介護5	990	1,022	1,032	1,086	1,097	1,048
	合 計	2,742	2,849	2,737	2,856	2,887	2,832
延べ定員数		2,742	2,851	2,739	2,857	2,889	2,834
稼働率 (%)		95.2	95.8	95.1	96.0	97.1	98.4

		令和6年			令和7年			合計
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護給付	要介護3	744	661	663	581	572	646	8,180
	要介護4	1,073	1,087	1,108	1,096	951	969	12,599
	要介護5	1,085	1,060	1,031	1,023	956	1,096	12,526
	合 計	2,902	2,808	2,802	2,700	2,479	2,711	33,305
延べ定員数		2,902	2,813	2,805	2,704	2,481	2,718	35,335
稼働率 (%)		97.5	97.7	94.3	90.9	92.3	91.3	95.1

5. 入所待機者の状況（令和7年3月31日現在）

市町村名	人数	待機場所			
		医療機関	施設	在宅	その他
さいたま市	11	3	5	3	
川口市	1		1		
合 計	12	3	6	3	

6. 研修実施状況

(1)外部研修（Zoom研修も含む）

実施日		場 所	研修内容	参加人数
令和6年	6月3日	Zoom	職場内コミュニケーション研修	1
	6月12日	Zoom	福祉現場に必要な法律の基礎知識研修	1
	7月1日	Zoom	感染症予防・基礎研修	1
	7月9日	さいたま市保健所	ナッジ理論に関する研修	1
	7月25日	Zoom	メンタルタフネス研修	1
	8月7日	Zoom	人事管理・人事考課研修	1
	8月10日	Zoom	カスタマーハラスメント研修	1
	9月6日	浦和医師会	多職種研修会	1
	9月12日	Zoom	人材育成担当者研修	1
	9月16日	Zoom	ハラスメント防止研修	1
	9月23日	Zoom	B C P研修	1
	9月26日	Zoom	心理的安全性のあるチームのつくり方研修	1
	10月10日	Zoom	人が辞めない職場つくり研修	1
	10月14日	Zoom	スーパービジョン基礎研修	1
	10月27日	Zoom	高齢者虐待防止研修	1
	10月30日	Zoom	高齢者の医療的ケアに関する研修	1
	11月21日	さいたま市保健所	経管栄養の選択と地域連携の必要性	1
	11月28日	Zoom	介護福祉士実習指導説明会	1
	12月10日	Zoom	埼玉県介護施設 SAFE 協議会	1
	12月11日	Zoom	感染症対策・応用研修	1
	12月12日	Zoom	リスクマネジメント研修	1
令和7年	2月1日	Zoom	公機能向上研修	1
	3月4日	Zoom	クレーム対応研修	1

<延べ参加者数：23名(内オンライン20回)>

(2)内部研修（全体会）

実施日		場 所	研修内容	参加人数
令和6年	4月	22日	3階大会議室 ・令和6年度事業計画について ・緊急時の対応について	7
		26日		6
	5月	27日	3階大会議室 ・ユニットケアについて	8
		31日		7
	6月	19日	3階大会議室 ・身体拘束廃止について ・虐待防止について	7
		21日		6
	7月	16日	紙面 ・感染症及び食中毒予防、蔓延防止について	51
		19日		
	8月	19日	3階大会議室 ・技能実習生受入れについて	24
		23日		12
	9月	17日	3階大会議室 ・事故防止について ・身体拘束廃止について	17
		20日		14
	10月	21日	3階大会議室 ・褥瘡予防について ・服薬介助について	13
		25日		16
	11月	18日	3階大会議室 ・個人情報保護法について ・法令遵守について	13
		22日		7
	12月	20日	紙面 ・感染症及び食中毒予防、蔓延防止について	52
		27日		

令和7年	1月	17日	3階大会議室	・事故防止について	8
		24日	3階大会議室	・虐待防止について	12
	2月	21日	3階大会議室	・食事について	9
		28日	3階大会議室	・口腔ケアについて	14
	3月	11日	3階大会議室	・看取りケアについて	11
		20日	3階大会議室		7

＜延べ参加者数：321名＞

7. 委員会活動実績

委員長を中心に事前に予定（場所・時間・内容）を決め招集を図り、法定委員会・運営委員会を定期開催を行う事が出来た。又、昨年に引き続き感染症の流行状況により対面から紙面会議に変更し柔軟な対応を行うことで年間を通じて開催を行う事が出来た。継続的に開催を重ねる事により、責任感や取り組み姿勢、書類作成、多職種連携が図れ、業務の統一等サービス向上に繋がった。

(1)法定委員会

①感染対策委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・入居者感染症リストの更新（HBV・HCV・TPHA・MRSA・CD・ESBL） ・感染状況の確認及び予防対策の検討
	安全対策担当	看護職員	
	介護主任	管理栄養士	
	各階介護士		

- ・毎月、入居者の感染症リストを作成し、感染状況の確認を行う。又、定期的に理事長より新型コロナウイルス感染情報を共有し、感染予防意識の向上に努めた。
- ・入居者・職員に施設及び施設医の指示のもと抗原検査を実施し内容の報告を行った。
- ・新型コロナウイルス・インフルエンザの感染動向や行政情報の確認及び感染予防対策を検討した。

②褥瘡予防委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・褥瘡発生者の有無について報告 ・年4回OHスケール測定を実施しリスクデータを基にベットマット・エアーマットの選定、私用状況の確認報告 ・褥瘡予防研修（施設内部研修）の企画・実施
	安全対策担当	看護職員	
	介護主任	管理栄養士	
	各階介護士		

褥瘡発症者（入院治療中の利用者も含めた数）

（単位：人）

		令和6年									令和7年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生者	1階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3階	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- ・令和6年5月に入居前からの持ち込み1名、6月に入居前からの持ち込み1名が居たが施設医の

診察及び適切な処置にて2名とも早期に治癒することが出来た。

- ・令和7年3月末現在、褥瘡発生者はなし。
- ・日頃から入居者の皮膚状態の観察を行い、異変があれば他職種と協働し早期発見・対処に努めた。
- ・施設内部研修については、10月に実施し、職員へ褥瘡予防の理解、意識付けを行った。

③安全衛生委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・ 特養職員の健康状態の把握 ・ 健康保持、向上への指導・助言
	介護主任		

- ・毎月、担当者より職員の心身状態の報告を行い、産業医・医療機関との連携（受診の有無など）を図り、対象職員に合った休息や業務内容の組み立てを検討した。

④事故防止検討委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・前月分の事故報告、ヒヤリハット1・2の集計分析 ・類似事故の再発防止策の検討 ・センサー類使用状況確認 ・事故防止研修（施設内部研修）の企画・実施
	安全対策担当	機能訓練指導員	
	介護主任	各階介護士	

- ・各ユニットで起きた事故及びヒヤリハットの内容・場所・時間・自立度等を整理し発生状況の分析・検証し、事故検討会で検討した事故の原因分析や対策について再発防止に繋がっているかを評価、検証した。
- ・年2回事故防止についての内部勉強会を実施し、職員のリスクマネジメントに対する意識の向上を図るとともに行政報告が必要となる事故内容及び書類作成について全職員に周知を行った。
- ・事故委員を中心に車椅子の安全点検（2ヵ月に1度）を実施した。又、センサー類を円滑に使用できるように管理を行った。

⑤虐待防止委員会 ⑥身体拘束廃止委員会（合同開催）

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・高齢者虐待・身体拘束実施の有無の確認 ・不適正ケアの確認及び改善策の検討 ・身体拘束廃止の適正化・虐待防止（施設内研修）の企画・実施
	安全対策担当	管理栄養士	
	介護主任	各階介護士	

- ・施設内での高齢者虐待及び身体拘束の事例が発生していないかを毎月確認し、令和6年度は虐待及び身体拘束に該当する入居者はいなかった。
- ・毎月テーマを変えて、不適切ケアについてユニットごとに現状確認、改善策について検討した。
- ・年2回身体拘束の適正化及び虐待防止についての内部研修会を実施し、職員へ不適切ケア防止の意識付けを行った。

⑥給食委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・嗜好調査や残食、聞き取りから給食への意向を確認し 献立や調理方法の検討を行う ・行事食や日々の食事提供での連携を図る ・食事形態の見直しや改良の検討をする
	各階介護士	管理栄養士	
	委託業者：調理師・ マネージャー		

- 嗜好調査や残食、聞き取りから給食への意向を確認し、利用者が好まれる献立、食べにくい献立を確認し、食べやすい献立作成と調理の検討を行った。
- 日々の食事提供での問題点の聞き取りをし、改善に向けて連携を行った。
- 食事形態の見直しのため試食をしながら改良に努めた。

⑦定例入所判定会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	第三者委員	副施設長	- 入居申込状況及び取下げ状況について - 入退居状況及び入退院状況について - 新規入居者選考について - 在宅復帰にむけた検討について
	介護ユニットリーダー	生活相談員	
	機能訓練指導員	看護師	

- 感染状況を見ながら対面での開催や書面にて意見聴収する形を取り、入居申込状況や入退居・入退院の報告を行った。又、第三者委員には後日入居・退居状況や施設の状況について報告や意見聴収を行った。

⑧苦情解決委員会

開催月	出席者		主な議題
年 1 回	第三者委員	副施設長	- 第三者委員へ 1 年間の苦情報告 - ブエナビスタの現状についての報告及び助言
	生活相談員		

- 令和 6 年度は、第三者委員をお招きして対面で開催し苦情報告を行った。家族との連携や報告等を細目に行い信頼関係を築き誠心誠意努めるよう意見を頂いた。

(2)運営委員会

①防災委員会

開催月	出席者		主な議題
奇数月	副施設長	防火管理者	・年 2 回実施の防災訓練内容の検討 ・備品（ヘルメット・防災頭巾等）の総数・保管の確認 ・防災備蓄食料の確認及び更新
	介護主任	各階介護士	

- 令和 6 年度は、10 月に日中想定で火災からの避難訓練・消火訓練、3 月に夜間想定で避難訓練・消火訓練を実施した。8 月に地震想定での避難訓練を予定していたが感染症の発生より実施出来なかった。中途採用職員や技能実習生を中心に消防訓練に参加したことのない職員に参加してもらい、消火器の使用方法を理解する等防災意識を向上させることができた。
- 防災備蓄食料の確認を行い、適切に賞味期限の入替えを行いフードロスに繋がった。

②ユニット会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	介護主任	介護ユニットリーダー	・食事、口腔ケア、排泄、入浴に関するサービス提供の確認と見直しの検討 ・改善項目・直近課題の対応の検討
	介護職員	看護職員	

- ・毎月各ユニットでユニット会議を開催し、入居者の状況をユニット職員で確認・情報共有を行った。又、現在のケア方法を継続していくべきか、変更が必要かの検討を行い、常に入居者の状況に合ったケアを提供できるように努めた。
- ・各種委員会にて話合った内容をユニット会でも伝達し情報共有を行った。
- ・（排泄）利用者に適切なパッドを使用出来るよう、尿量測定を行いパッド変更や交換回数の見直しを行い、パッドの使用量が多少減らすことは出来たが劇的な効果が出るまでには至らず今後の課題として残った。
- ・（入浴）今まで個浴で入浴されていた入居者が ADL の低下により特浴に変更になるケースが増えた為、入浴専従の職員を配置し対応した。又、入浴日の見直しや各階の勤務シフトの調整を行い、各階の職員と連携し出来る限りゆっくり入浴して頂けるように取り組んだが、特浴対象者は増えており今後の課題として残った。
- ・（食事）利用者の嚥下状態等、心身の状態に合わせて、食事形態の見直しを行い適切なトロミの使用を心掛けた。管理栄養士と連携を図り、療養食や傾向維持加算の対象となりえる入居者の選定、情報提供を行った。
- ・（口腔）介護職員だけでは十分な口腔ケアを行う事が難しい為、協力医療機関の歯科医院と連携し口腔ケアが不十分な入居者をピックアップし毎週 10 名前後、往診にて歯科衛生士によるブラッシング等を実施し清潔に努める事が出来た。

③レクリエーション・広報委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	副施設長	介護主任	・年間行事予定の立案と実施 ・ユニットごとのレクリエーション・行事の立案と実施 ・年 4 回、ユニットごとに家族へ送るユニット通信作成
	安全対策担当	各階介護士	

- ・毎月、季節感を味わって頂ける行事を企画、実施したが感染状況に左右され行事の日程変更や内容の変更を検討しながらの実施となった。外出レクについては、感染状況を見ながらとなり行ける時期やユニットは限られたが実施することができた。
- ・ユニットごとに適宜、レクリエーションや行事を企画、実行しおやつレク、料理レクがメインとなったが入居者に好評な様子が見られた。又、ラジオ体操や口腔体操を盛り込んだ音楽レクも適宜実施し楽しみにされている入居者も多かった。
- ・年 4 回、ユニットごとにユニット通信を作成し、コメントを一言添えて掲載許可のある入居者の写真を掲載しご家族へ送付した。家族からは入居者の近況を知る材料の一つとなっており喜びと感謝のコメントをたくさん頂戴した。

<令和6年度 年間行事予定実施状況>

日程	行事内容	実施状況
令和6年	4月 お花見（散歩）	ユニットごとにお花見・散歩を実施
	5月 母の日	ユニットごとに母の日レクを実施
	バラ園	感染予防で中止
	6月 父の日	ユニットごとに父の日レクを実施
	7月 七夕祭り	ユニットごと（フロア共同）で七夕レクを実施
	花火	実施できず
	8月 納涼祭	ユニットごと（フロア共同）で納涼祭を実施
	花火	3階のみ花火を実施
	9月 敬老会	ユニットごとに敬老会を実施
	10月 お月見	感染予防で中止
	運動会	感染予防で中止
	11月 料理・おやつ	ユニットごとにおやつレクを実施
令和7年	買い物レク	3・4階のみ買い物を実施
	12月 クリスマス	ユニットごとにクリスマス会を実施
	ゆず湯	4階のみゆず湯を実施
	1月 新年会	感染予防で中止
	2月 節分	ユニットごと（フロア共同）で豆まき実施
	3月 ひな祭り	ユニットごとに実施し、事務所にひな壇設置

<不定期の行事>

・カラオケレク ・カフェ ・誕生日会 ・出前レク ・おやつレク

8. 各部門の取り組み

(1)教育チューター

①職員教育

<新入職員（正職員・パート職員・派遣職員）へのオリエンテーション実施>

入職1週間以内を目途に実施。令和6年度は正職員6名、派遣職員10名、非常勤職員1名に各種マニュアル、施設案内、業務の流れ、入居者の状況、非常時の避難経路等の説明を行った。

事故防止については、イラストを使用し危険予知の個人ワークにて事故防止に必要な知識（入居者を知り、視野を広く持ち、多角的に分析する、介護職員としての気づきの力・想像する力）の指導を行った。

ヒヤリハットは、リスク1・リスク2・行政事故報告書の基準の説明を行った。

身体拘束の適正化について、理念・身体拘束における弊害・不適切ケア（グレーゾーン）及びやむを得ず身体拘束を行う場合の三原則（切迫性・非代替性・一時性）について説明した。

感染症対策については、接触感染・飛沫感染・空気感染等の感染経路がある事や高齢者施設における代表的な感染症（インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症・ノロウイルス・肝炎・梅毒・MRSA・ESBL等）の説明とその予防対応含むケア方法を指導した。

<職員への個人面談実施>

対象は、新入職員（月1回×成長レベルに応じて概ね半年～1年間）及びユニットリーダーから依頼があった職員や中堅職員の面談を実施し、職員と同じ目線で話を聞くことを心掛け職員のストレスや不満、不安の解消を図り、職員との信頼関係構築することを目的として実施した。

内容は、体調確認（腰痛等）・業務上の課題（提案・目標）・入居者、家族への対応等の課題・職員間の関係性や悩み事、やりがい、働きやすさ、待遇、感染予防、介護観、ストレス等、個々の職員の状況に合わせて行った。

<新入職員へ自己チェックシートによる自己評価、リーダー評価の実施>

対象は、正職員（入職3ヶ月後、半年後）計2回実施している。内容については、介護における知識、技術、心構え等の項目ごとに職員自身及びユニットリーダーが評価し、自身が現在出来ていること、出来ていないことを明確にして今後につなげていくことを目的として実施した。評価後、採点表を作成し副施設長、介護チーフ、ユニットリーダーに報告し面談等を通して個別に助言やアドバイスをを行った。職員によっては自分に厳しく評価する者と甘く評価する者に分かれていた。

<毎月の全体会（施設内部研修）の実施>

年間の研修計画に沿って研修実施のサポート（研修内容の企画、資料作成等の準備、日程調整、報告書の確認等）を実施した。令和6年度は法定研修である事故防止、身体拘束の適正化（虐待防止）、感染症対策に加え、緊急時の対応、褥瘡予防、服薬介助、ユニットケア、個人情報保護・法令遵守、食と口腔ケア、看取りケアについての研修を実施した。感染症の流行状況により集合研修から各ユニットでの書面研修に切り替える等、状況に応じて研修を実施した。又、課題となっていた参加率についても実施時間を業務時間内にすることで派遣職員も含め参加率が増加に転じた。

<技能実習生受入れ>

本部に習い技能実習制度を活用し令和6年10月インドネシアより技能実習生2名を受入れた。日本の文化や風習の指導を行うと共に介護と連携を図り、介護技術の習得や生活習慣の指導をする事で日勤業務を行う事が出来た。出勤時には日本語学習の指導を行い、言語知識（文法・語彙・文字）、読解について日本語を学び毎月、過去問を抜粋した模擬試験を実施し学習習熟度を確認した。

②安全対策担当

ヒヤリハット報告書及び行政事故報告書を確認し、事故検討会の出席、多職種にて原因と対策を検討した。行政事故報告書については期限内に提出出来ていない時期があった為、事故防止委員会にて期日や報告手順を改めて周知し、作成から確認、報告手順の見直しを行い期限内で提出できるように改善した。又、事故防止委員会では、フロアごとの月集計をもとに事故内容の傾向や課題、対策を検討した。各ユニットの車椅子の安全点検の実施、センサーマット等の使用状況の管理を行い車椅子の不備や不具合を効率よく修理依頼できるよう管理番号を貼り、一覧表を作成した。

(2)介護

各ユニットで「さわらび会の理念」に沿った年間目標を計画し、入居者に安心した生活を送って頂く為の介護支援が出来るように意識付けを行った。しかしながら、一部達成できなかった内容が各ユニットで残る結果となった。令和7年度は引き続き目標達成ができるよう各ユニットで課題分析を行い介護支援が出来るよう努めていく。

①生活全般

家族との面会は、14:00～15:30の間で予約制とし1組10～15分の面会時間で1日5組までの面会を実施した。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルス感染症の流行期にはガラス越しの面会とし、感染が減少している時期は対面面会を行った。ガラス越しや対面面会どちらも入居者と家族の交流の場を作る事ができ、多くの笑顔を見る事ができた。特に対面面会では、家族が喜ば

れている様子を見ることができた。面会時には家族へ生活時の様子を報告することで情報共有を行い、面会に中々来られないご家族へはユニット通信にて様子を報告するよう心掛けた。

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルス感染症の流行状況の把握に努め、感染対策を実施した。令和6年度は新型コロナウイルス感染症の感染は入居者17名、職員14名の感染が発生しましたが、感染者や濃厚接触者を含め居室対応や職員のフロア移動の制限を行う事で職員の意識も高まり感染対策にも取組んだ結果クラスター発生には至らなかった。

②リスクマネジメント

行政報告の介護事故は29件であった。前年度は16件であった為大幅に増加した。内容は服薬ミスが21件、骨折5件、裂傷1件、カテーテル抜去1件。事故発生後、事故検討会を開催し、多職種にて事故の原因、分析、対策の検討を実施した。又、検討した内容に沿って行政報告書を作成し、さいたま市に提出後、書面にて全職員に再発防止に向けて周知徹底を図った。特に服薬ミス（落薬・予薬忘れ・下剤ミス）の事故が前年度よりも多く、各ユニットで作成している服薬マニュアルの見直しやチェック体制の改善、リーダー会議や委員会、勉強会を通じて服薬ミスによるリスクを周知徹底し実施した。苦情は、2件であった。内容は郵送ミスと職員の電話応対についてであった。郵送ミスについては、個人情報にも関わる事なので郵送時には職員2名にて二重のチェックを行い確認する事とした。電話応対については、様々なご家族がいる事を理解し適切な接遇について施設内勉強会やユニット会議にて職員に再度周知を図った。

③人材（財）育成

職員のスキル状況に合わせてシフト作成を行い、勤務や業務内容の調整を行った。新入職員育成についてはトレーニング期間を設けて1対1での関わりを持ち、スキル状況を見極めて段階を踏んでから、次の業務トレーニングを行った。教育チューターと連携し業務の進捗や悩み事等の確認を共有することで新入職員が孤立しない環境に努めた。又、今年度より本部に習い技能実習制度を活用しインドネシアより技能実習生の受入れを行い、技能実習指導員や生活指導員を中心に介護技術や生活指導を行い、一人での入居者の援助や信頼関係の構築を図り日勤業務を行う事が出来るよう育成に努めた。委員会活動は、職員の入退職状況に左右されることが多かったが新入職員や今まで参加していなかった職員を入れることで帰属意識の底上げに繋がった。又、内部研修だけでなくzoomを使った外部研修に積極的に参加し介護技術や知識の向上に繋げ人材育成に努めた。

(3)看護

令和6年度も新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザウイルス感染症にて入居者や職員の罹患が発生し、施設医の指示のもと職員の人数が少ない中でも入居者への対応や感染拡大防止を多職種と協力することで最小限に抑えることができた。又、日々の観察を多職種と連携し丁寧に行い、入居者の変化を見逃さず、早期に施設医へ繋げることができた。施設医も入居者と日々の関わりにて観察する事で異常の早期発見・早期治療ができ、指示のもと施設で可能な治療を行うことで入居者の状態悪化を防ぎ、入院数や受診数を少なく抑えることで入居者が安心して生活できるよう努められた。

①服薬

行政案件となる誤薬事故の発生が多かったが、事故発生後には迅速に検討会を開き服薬マニュアルの変更を行い服薬事故防止に取り組んだ。又、事例は施設全体で共有し再発防止に努めた。正しく

服薬が行えるように新入職者を含めた介護職に対して、服薬マニュアル通りにできるまでユニットにて指導を行い、最終確認を看護師が行うことで正しい服薬を徹底することができた。

②感染症

新型コロナウイルス感染症については、令和5年度に5類となりワクチン接種については積極的に接種を求めることが難しい中で全体の4割程度の入居者は接種することができた。今年度は入居者が17名罹患してしまったが、施設医の指示のもと治療薬を処方して頂くことで早期の回復に繋げることができた。又、これまでの経験を活かし、居室隔離対応やフロア間の移動制限等の感染対策を徹底したことで感染拡大を最小限にて防ぐことができた。インフルエンザウイルス感染症については、9割程度の入居者が接種できたが10名罹患され、1名が入院となった。

③多職種連携

感染症対策委員会や褥瘡予防委員会に参加することで、入居者の感染状況や褥瘡の有無について多職種と情報を共有し、入居者へのケアの留意点や感染対策の意識の向上、褥瘡に対しての知識を深められるよう啓発に努めることができた。

④褥瘡

施設医や他職種と連携を図り、皮膚状態だけでなく全身状態の変化や観察を行い、褥瘡発生の兆候を見逃さず、褥瘡予防に努めることができた。

特養入院日数状況

(単位：人)

	令和6年									令和7年			合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
入院者数	0	2	1	2	1	2	2	1	2	3	2	2	20	1.7
延べ入院日数	0	26	30	7	23	13	47	1	15	33	23	20	238	19.8

特養外来受診状況（延べ人数）

(単位：人)

	令和6年									令和7年			合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
内科		3				1		1		1			6	0.5
循環器	3	2		1		1	1						8	0.7
脳神経外	1	1											2	0.2
消火器外		2			1			1					4	0.3
消火器内			2					1	1				4	0.3
泌尿器						2			1	1			4	0.3
神経内科									1				1	0.1
精神科													0	0.0
整形外科	2			1	1	2		4	2		2		14	1.2
皮膚科		1	2	2									5	0.4
耳鼻科		1											1	0.1
眼科									2		1	1	4	0.3
合計	6	10	4	4	2	6	1	7	7	2	3	1	53	4.4
救急搬送	1								2	4	1		8	0.7

(4)機能訓練（リハビリ）

- ①心身機能の維持向上を目指し個別機能訓練計画を立案するにあたり LIFE（科学的介護情報システム）に取り組み、アセスメントを定期的に送り情報に基づき、入居者の状態を踏まえた計画書を作成しリハビリの実施や評価を行った。
- ②入居者の日常生活動作が維持できるよう、個別機能訓練計画書を立案。計画的に個別リハビリを実施し、入居者の生活動作の維持に繋がった。又、リハビリの専門性を活かして個別訓練だけでなく集団訓練として体操や歌唱など複数名の入居者で行えるレクリエーションを取り入れ楽しみながら運動機能の維持や意欲・活動性の向上に取り組んだ。
- ③事故防止委員会や担当者会議に出席し、多職種と連携して各フロアで起きた転倒事故や転落事故の発生状況を把握し、現状の ADL を各職員に伝達し適切な指導・確認を行った。又、ケアプランと連動させ入居者に合った福祉用具の選定や評価を実施し、介護職員に紙面や申し送りにて使用方法やアドバイスをを行った。
- ④コロナウイルス・インフルエンザウイルス感染症発生時には、居室対応の入居者に対して褥瘡予防の為にクッション等を使用した体位変換で好発部位の除圧を行い、収束後は身体機能の再評価を実施し発生以前の状態に戻せるよう再度計画書を立案・実施した。又、安全対策担当者や医務と連携し、ベットマットの選定やナーセントパット等の福祉用具の活用した介助方法の助言を行った。
- ⑤令和 7 年 2 月に機能訓練指導員が退職となり、機能訓練が中断となっている。

(5)生活相談

①特養入居

- ・入居の相談及び申込窓口として対応を行った。令和 6 年度の定例入所判定委員会は、毎月『さいたま市特別養護老人ホーム入退居指針』に基づき、第三者委員（大滝裕子様）も参画し、入居検討委員会が透明性・公平性の確保に努めた検討・決定を行った。
- ・入居待機者の状況については、生活相談員が連絡を取り状況の確認を行った。

入居検討委員会開催実績

（単位：回）

	令和 6 年									令和 7 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
件数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

- ・事前調査では、対象者の生活歴を中心に心身の状況や家族の支援状況等を確認し、併せてワクチン接種状況やコロナの罹患歴の収集に努め、ご家族には面会方法を説明とご理解に努め入居時には、1 週間程度は様子観察を実施し感染予防に努めた。
- ・面会については、居室までの入室は昨年度に引き続き禁止とし宿直業務の廃止に伴い空部屋となっている宿直室を面会室として開放して感染対策を実施した上で、対面面会を実施。感染状況を確認し感染者数が上がり始めたところでガラス越し面会に切り替え対応した。ボランティア等の受入れは今年度も出来なかったが、昨年に引き続き往診医のご厚意で演奏会を実施し、参加された入居者からは一緒に歌う等好評であった。
- ・令和 6 年度は、在宅復帰される入居者が 1 名いらっしゃった。入居検討会にて定期的に在宅復帰に

向けた検討を行いご本人とご家族の想いを汲み取り支援を行った。

- ・ 苦情窓口となり家族からケアに対する要望、日常の声掛けや関わり、身体の変化等の報告があった際には、多職種と連携し常日頃の状態報告を共有し家族の思いを伝えた。

(6)ケアプラン

- ・ 入居者について、心身の状態や取り巻く環境、利用者及び家族の希望等を勘案しながら、施設サービス計画書（ケアプラン）の作成に努めた。
- ・ サービス担当者会議は定期的（3ヶ月）に開催し、入退院、状態の変化、新規入所後、行政事故報告、褥瘡、看取りケア開始等可能な限り入居者にも参加して頂きながら、現在の状態を多職種と共有し検討した。又、ご家族には面会時や電話連絡にて事前の聴収や確認を行った。
- ・ 看取りケア開始前には、医師から IC を行い同意を得て本人やご家族の想いに寄り添ったケアプランとなるようにユニット職員をはじめ多職種と密に連携を図った。

特養ケアプラン作成実績

（単位：件）

	令和 6 年									令和 7 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
件数	28	37	32	34	36	31	31	33	30	32	36	26	386
看取りケア		1	2			2	1	1	2	3	3	2	17
看取りケア解除							1						1
計	28	38	34	34	36	33	33	34	32	34	39	28	403

<前年度：423 件>

※R5 年度実績より作成件数 20 件減少した。入居稼働率が下がり、退去者が多く出た為。

(7)食事・栄養

①食事

給食委員会を毎月 1 回開催し、嗜好調査の結果を共有し、利用者の栄養状態、衛生管理、行事について各職種間で意見交換・検討を行い課題解決に努めた。利用者ごとの咀嚼、嚥下状態に応じた食事形態や嗜好に添った食事提供に努めた。

体調不良時にはその時の状態に応じた食事形態での食事を提供出来た。

食事量の低下、嚥下状態の悪化が見られる利用者に対して、柔軟に食事形態や提供方法を変えて、栄養補助食品の提供を行い経口摂取の継続を行うことが出来た。

敬老会は今年度も規模縮小での実施であったが、お祝いの膳の提供が出来た。又、旬の食材を使用した料理、行事食を提供し食事の面から季節を感じて頂けるように努めた。

食材料の高騰が続き値上がりしている中でも食数の確認や職員食の注文方法を見直し、欠食ミスも減少しフードロスに繋がった。

②栄養

多職種協働のサービス担当者会に参加し、栄養ケアマネジメントを実施することが出来た。

利用者ごとの身体的データ及びその他の身体状態を把握し状態に合わせた栄養補助食品を選定・提供を行う等栄養状態の維持・改善に努めた。褥瘡発生者、OH スケール高度リスクの入居者には食事量・体重増減の把握・栄養状態の確認を行い、状態によりカロリーの見直し、補助食品の提供を行

った。

医師の指示により療養食の提供を行い、慢性疾患の病状の安定に努めた。

③衛生管理

給食委託会社と連携し衛生管理に努めた。

④コロナ対策

感染症発生時は給食委託会社と連携し、発生時の配膳方法をマニュアル化し感染の拡大防止に努めた。クラスター発生時は感染症対策として使い捨て容器での食事提供を行い、食器の備蓄をした。随時感染者には使い捨て容器での食事提供を行い感染対策に努めた。

低栄養状態リスク(令和7年3月判定)

	令和7年3月	令和6年3月
低リスク	39名	31名
中リスク	39名	50名
高リスク	9名	11名

療養食(加算対象)

(令和7年3月)

心臓病食	腎臓病食	糖尿病食	貧血食	合計
2名	2名	3名	5名	12名

※療養食対象者の退所や検査数値改善のため前年度の14名から2名減少。

経口維持加算Ⅰ(加算対象) (令和7年3月)

経口維持加算Ⅰ
14名

9. 防災・安全対策

(1)防災訓練

火災災害や風水害に備え防災訓練を桜消防署と連携のもと、下記の通り実施した。

訓練実施日 訓練想定	訓練実施項目	参加者	
令和6年10月28日 (日中想定)	①火災発生時の入居者及び職員自身の安全確保 ②火災発生の確認及び初期消火 ③出火元からの避難誘導 ④避難行動訓練(出火元から遠ざかるよう並行避難) ⑤消防機関への通報及び連携 ⑥施設内外の設備点検の実施(建物・設備の確認) ⑦情報収集(利用者、職員等の安否・受傷状況確認) ⑧指揮統括(管理者へ安否確認及び被害状況報告) ⑨水消火器を利用した初期消火訓練	特養	職員:11名 利用者:96名

令和7年3月18日 (夜間想定)	①火災発生時の入居者及び職員自身の安全確保 ②火災発生の確認及び初期消火 ③出火元からの避難誘導 ④避難行動訓練（出火元から遠ざかるよう並行避難） ⑤消防機関への通報及び連携 ⑥施設内外の設備点検の実施（建物・設備の確認） ⑦情報収集（利用者、職員等の安否・受傷状況確認） ⑧指揮統括（管理者へ安否確認及び被害状況報告） ⑨水消火器を利用した初期消火訓練	特養	職員：6名 利用者：92名
---------------------	---	----	------------------

昨年度に引き続き感染状況を見ながら日時を変更し実施した。又、いつも参加している職員ではなく、昨年から入職した職員や技能実習生にも参加してもらうよう働きかけなるべく参加したことのない職員へ向けて実施する事で防災意識の向上を図れた。

(2)設備点検【法廷点検】について

①消防用設備等点検は、中央理化工業が、令和6年1月11日と令和6年7月2日の2回実施した。内、7月2日の点検結果をさいたま市消防局に提出した。

②非常用発電装置は、ESA 株式会社が次のように実施した。

- ・電気設備点検を隔月毎実施。

10. 広報活動

ユニット通信作成：4回

月	回数	月	回数	月	回数
4月	1	8月	0	12月	0
5月	0	9月	0	1月	1
6月	0	10月	1	2月	0
7月	1	11月	0	3月	0

11. 総括

(1)令和6年度の収入実績は、前年度 530,451,525 円に対して今年度は、530,807,547 円で前年度比 100%、日標に対しては 99.2%の実績であった。特養入居の稼働率は、年間利用日数 35,136 日に対して実利用日数が 33,335 日、稼働率 95.1%であった。

令和6年度の職員の入退職は、入職 29 名・退職 31 名とブエナビスタの職員の約 4 割の入れ替わりとなり前年度と同様だった。職員補充として主として人材紹介・派遣であったが、正職員の入職が少なく派遣に頼る形となり人件費の増加を招く結果となった。又、短期入所の稼働率は、前年度同様受入れはなかった。前年度に続き戦争や円安にて、光熱費・ガソリン・食材・介護用品・ペーパー類等に加え食の中心となるお米についても高騰し全ての物が高騰している状況で、値上げに関しては、前年度と同様に各業者と価格交渉を行い出来る限り価格抑制に努めた。又、オムツの使用については排泄委員会を立ち上げたが、値上げの影響もあり今まで使用していたパットやオムツ類の見直しが必要となった為、再度パットやオムツの選定を要し委員会として機能するまでに至らず、令和7年度へ持ち越す形となった。

(2)令和 6 年度もコロナウイルス・インフルエンザウイルス感染症への予防対策として、全職員がマスクの着用・手洗い・手指のアルコール消毒等の実施や感染症の疑いがある症状や同居家族の体調不良がある場合には可能な限り行動履歴の確認等を行い、受診の促しや出勤の中止を実施した。又、ワクチン接種については、5 類移行に伴い入居者は 1 月下旬迄に 43 名がワクチン接種の実施となった。職員については、ワクチン接種の補助も終了した為、副反応の症状の有無もほぼ接種される方がいない状況であった。コロナウイルス感染症について今年度は 7 月に 3 階入居者が発熱された為、施設にて抗原検査を実施し陽性の判定が出たので居室対応を実施したが、その後も同ユニット入居者が次々に発熱され抗原検査を実施し陽性の判定にて同ユニット 8 名の入居者が罹患された。しかしながら隣のユニットへの罹患はなく同ユニット内で収めることが出来た。8 月以降は入居者に罹患患者は出て居なかったが令和 7 年 2 月に 1 階入居者が発熱された為、施設にて抗原検査を実施し陽性の判定が出たので居室対応を実施した。その後も同ユニット入居者の発熱が続き抗原検査を実施し陽性の判定にて同ユニット 8 名の入居者が罹患されたが、隣のユニットへの罹患はなく収束する事が出来た。7 月、2 月に起きたクラスターについて居室対応の徹底やフロア移動の制限を実施したことで他の階への感染を防ぎ最小限に抑え早期の収束に繋げ前年度までの経験を活かす事が出来た。ただし、感染状況についてはいずれも職員からの発熱ではなく入居者からの発熱であったので、感染ルートとしては職員で無症状による持ち込みの可能性が高く今後も感染予防に努めていく必要があると感じた。インフルエンザウイルス感染症について 12 月に 3 階入居者が発熱された為、施設にて抗原検査を実施し陽性の判定が出たので居室対応を実施した。その後も同ユニット入居者の発熱や咳込みが見られ抗原検査を実施し陽性の判定にて 4 名と隣のユニット 1 名の計 5 名が罹患した。又、2 階入居者にも発熱や咳込みの症状があり施設にて抗原検査を実施し陽性の判定にて同ユニット 4 名の入居者が罹患された。1 階について 1 名発熱や咳込みが見られ施設にて抗原検査を実施し陽性の判定にて居室対応を実施したが、症状の悪化が見られ入院される事となった。感染状況については、3 階職員 1 名が無症状による持ち込みの可能性が高く対応が遅れ、他の階にも広がってしまったと考えられる。インフルエンザ予防接種は、入居者・職員共に 11 月中旬と 12 月初旬に接種出来ていたが罹患患者が多く出てしまう結果となり、今シーズンのワクチンは予防効果の少ないものであったかもしれないと推測される。今年度も感染予防の意識・対策を講じたが感染を防ぐには至らず難しい 1 年であった。

<令和 6 年度、コロナ陽性者>

	陽性者数	備考
入居者	17 名	1 階 9 名、2 階 0 名、3 階 8 名、4 階 0 名
職員	14 名	1 階 5 名、2 階 3 名、3 階 4 名、4 階 1 名、看護師 1 名
合 計	31 名	

<令和 6 年度、インフルエンザ罹患患者>

	陽性者数	備考
入居者	11 名	1 階 2 名、2 階 4 名、3 階 5 名、4 階 0 名
職員	7 名	1 階 0 名、2 階 2 名、3 階 3 名、4 階 0 名、栄養 1 名、チューター 1 名
合 計	18 名	

- (3)健康管理は、医務・介護が中心となり利用者の健康状態の把握に努め、体調不良の兆候が見られた際には、施設医や往診医の協力のもと早めの受診を心掛けた。又、感染症対策として検温、マスク着用、手指消毒、手洗い、換気を実施し感染症の予防と早期発見・早期対応を継続に努めた。前年度と同様にコロナウイルス・インフルエンザウイルス感染症の入居者が確認された場合は、協力医療機関である三愛病院に入院協力の依頼や相談を行ない、難しい場合には居室対応やフロアの移動制限を実施し、迅速な対応の調整に取り組んだ。
- (4)前年度に引き続き感染症流行期には、対面面会からガラス越し面会に変更しご家族と会える機会を継続し、ユニットやフロアごとによる小規模レクリエーションについても継続して実施する事が出来た。又、今年度も給食委託業者と協働し、ケーキバイキングや寿司バイキングを実施し、ご入居者からも好評の声が上がっていた。各種委員会活動については、昨年度と同様に感染状況を見ながらとなったが令和5年度に比べ対面で実施することが多く出来た。
- (5)令和6年度も、施設外研修は感染状況を見ながらとなり、主にZoom研修ではあったが特性を生かし空いた時間を使って研修を受ける、何度も見返す事が出来る等感染対策には適しており、多くの職員を参加させる事ができた。感染症予防の為、集合研修は前年度に引き続き限定的となり、栄養に関する研修で管理栄養士が参加することが出来た。又、内部研修については外部研修と同様に感染症予防の為、流行状況を見ながらの開催となった。前年度は開催出来ず書面による実施になることが多かったが、今年度は対面で実施することが多かった。参加率についても開始時刻や開催日程の変更をしたことで、前年度に比べ多くの職員を参加させることが出来たので、他部署や他フロア職員と意見交換や質問等を確認する事が出来た。
- (6)今年度より本部に習い技能実習制度を活用し令和6年10月インドネシアより技能実習生2名を受入れた。技能実習指導員や生活指導員を中心に日本の文化や風習の指導を行うと共に介護技術の習得や生活習慣の指導をする事で一人での入居者の援助や信頼関係の構築を図り、日勤業務を行う事が出来るよう育成に努めた。又、令和7年度の日本語能力検定試験に向けて出勤時には日本語学習の指導を行い、言語知識(文法・語彙・文字)、読解について日本語を学び毎月、過去問を抜粋した模擬試験を実施し学習習熟度を確認した。